鶏 卵

◆飼養動向

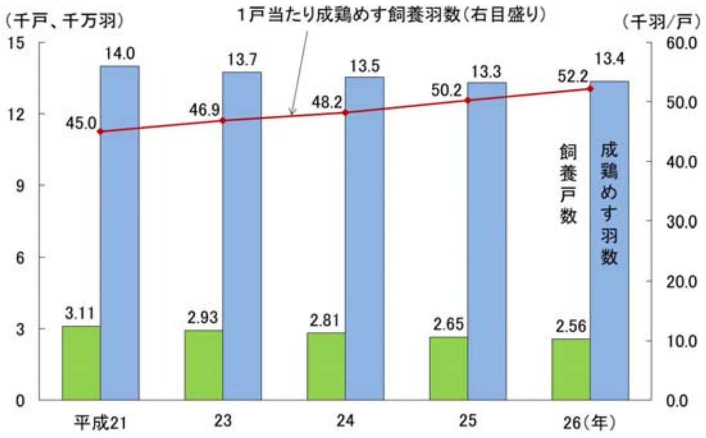
26 年 2 月現在の採卵鶏飼養羽数、0.3%増

採卵鶏の飼養戸数は、前年より 90 戸減少し、2,560 戸（前年比 3.4%減）となった。成鶏めす飼養羽数の規模別に見ると、5 万～9 万 9999 羽の階層において増加したものの、それ以外の中小規模の階層では減少した。

また、成鶏めす飼養羽数は、1 億 3351 万羽（同 0.3%増）とわずかに増加した。飼養規模別に見ると、成鶏めす飼養羽数が 5 万～9 万 9999 羽および 10 万羽以上の階層において増加した一方、それ以外の中小規模の階層においては減少した。

1 戸当たりの平均成鶏めす飼養羽数は 5 万 2200 羽（同 4.0%増）とわずかに増加し、依然として大規模化が進んでいる（図 1）。

図 1　採卵鶏の飼養戸数および成鶏めす羽数



資料：農林水産省「畜産統計」、「家畜の飼養動向」
注 1：数値は各年 2 月 1 日現在
2：成鶏めすとは種鶏を除く 6 カ月以上のめすをいう
3：飼養戸数は、種鶏およびひな（6 カ月未満）のみの飼養者および成鶏めす羽数 1 千羽未満の飼養者を除く
4：平成 22 年は世界農林業センサスの調査年のためデータなし

◆生産

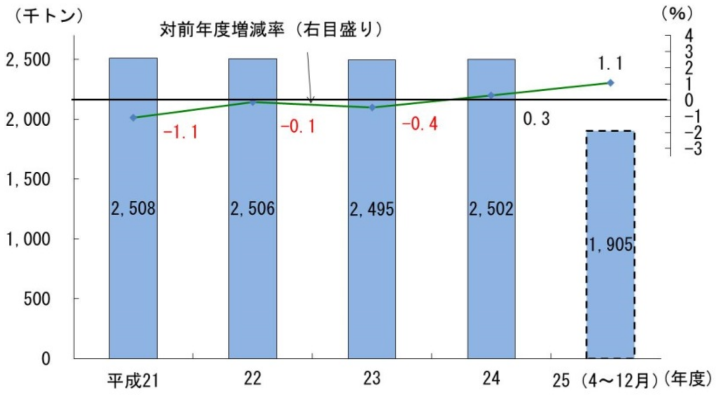
25 年度の生産量、1.1%増

鶏卵生産量は、23 年度まではひなえ付け羽数の減少などから減少傾向で推移してきた。

24 年度は、ひなえ付け羽数の回復などから、250 万 2000 トン（同 0.3%増）と前年度並みとなり、減少に歯止めがかかることとなった。

25 年度（4 月～12 月）は、鶏卵卸売価格が好調に推移し、ひなえ付け羽数が増加したことから、190 万 5000 トン（前年同期比 1.1%増）とわずかに増加した（図 2）。

図 2　鶏卵の生産量



資料：農林水産省「鶏卵流通統計」
注：26 年 1 月以降のデータは未公表

◆輸 入

25 年度の輸入量、0.8%増

鶏卵の輸入量(殻付き換算ベース)は、国内需要量の3～5%程度を占めるが、国内の生産量、価格動向、為替相場などの影響を受けて変動する。

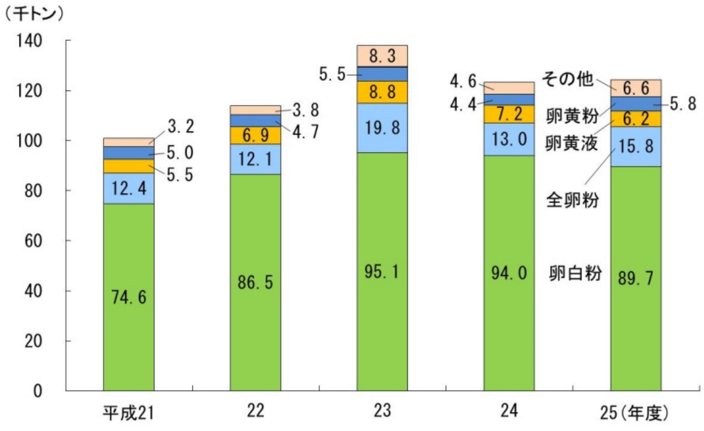
23 年度は、東日本大震災後の国産品不足に対応するため、加工メーカーなどが輸入品による手当てを行ったことから、13 万 7800 トン(前年度比 20.9%増)と大幅に増加した。

24 年度は、高水準であった前年の反動から、12 万 3200 トン(同 10.9%減)と、かなりの程度減少した。

25 年度は、震災発生以降に定着した加工・業務筋の需要もあり、前年度並みの 12 万 4100 トン(同 0.8%増)と、引き続き震災前(22 年度)の実績を上回った(図 3)。

なお、25 年度の主な輸入相手国は、オランダ、米国、中国であった。

図 3 鶏卵の輸入量



資料:財務省「貿易統計」
注:殻付き換算ベース

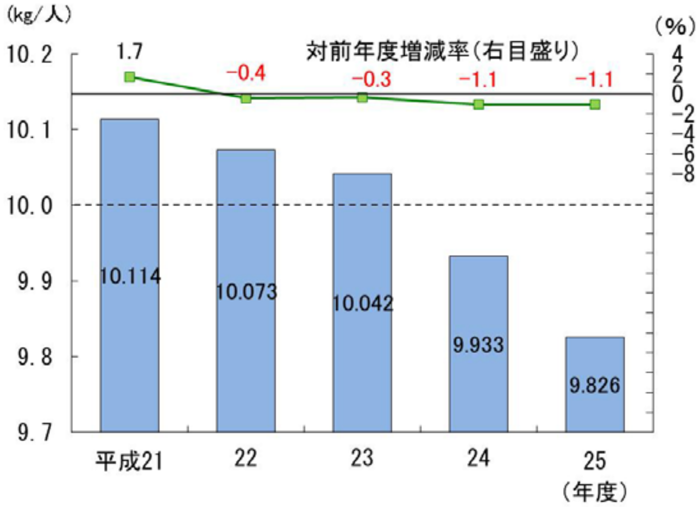
◆消 費

25 年度の 1 人当たり家計消費量、1.1%減

家計消費量は、卸売価格が上昇したことなどにより減少傾向となり 24 年度には年間 1 人当たり 9.933 キログラム(同 1.1%減)と 10 キログラムを割り込んだ。

25 年度も、卸売価格が上昇したことに加え、猛暑により家庭で火を使った料理が敬遠されたことなどにより、4 年連続の減少となる同 9.826 キログラム(同 1.1%減)となった(図 4)。

図 4 鶏卵の家計消費量(年間 1 人当たり)



資料:総務省「家計調査報告」

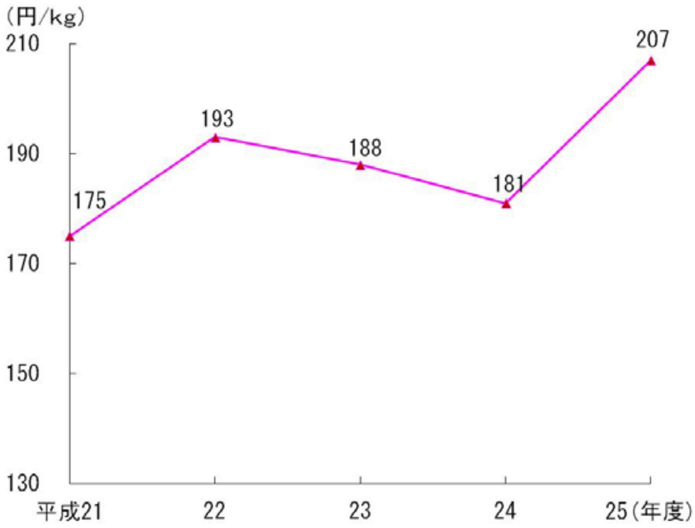
◆卸売価格

25 年度の卸売価格、14.4%高

鶏卵卸売価格(東京全農系 M)は、22 年度には、前年の卸売価格の低下を踏まえ、需要に応じた生産が行われたことなどから、前年をかなりの程度上回る 1 キログラム当たり 193 円(同 10.3%高)となったものの、23 年度および 24 年度は前年度を下回った。

25 年度は、生産面では夏場の猛暑の影響による卵重および産卵率の低下がみられたこと、需要面ではコンビニエンスストアのデザート需要などにより、下半期に相場が上昇したため、前年をかなり大きく上回る同 207 円(同 14.4%高)と平成 16 年度以来 9 年ぶりに 200 円台を記録した(図 5)。

図 5 鶏卵の卸売価格(東京全農系M)



資料:JA 全農たまご株式会社「月別鶏卵相場」